

ウムチョ ムィーザ通信

No. 5 2

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

～ルワンダ大虐殺から25年に想う～

NPO法人ルワンダの教育を考える会
理事長 永遠瑠マリルイズ



「ルワンダの教育を考える会」をいつも支援してくださっている皆様、ありがとうございます。福島はいつになく雪が少なく、梅・サクラ・桃・リンゴの花を楽しみにしております。

ルワンダでは1994年4月6日に発生した大虐殺から25年が経ちます。ルワンダとブルンジの大統領暗殺から約100日間に、およそ50万人から100万人が犠牲になりました。現在は国全体で和解と発展に向けて取り組んでいます。

25年前の今頃、希望と夢にあふれる仲間と交わした最後の挨拶「また明日」。その明日を迎えることが出来なかった仲間を思い起こしながら今日という日を生きている私。そして私たち家族を支えて下さった皆様に対してなんと感謝をすればいいか言葉が見つかりません。

26年前JICA青年海外協力隊員で現在当会副理事長穴戸なつ美さんと文化学園校長で故高橋啓子前当会理事長のご理解により1993年4月2日福島に到着しました。そして毎日必死に日本語や洋裁の技術を勉強し1994年2月に帰国しました。その後わずか2か月後内戦が勃発し、必死に幼子3人と向かう先もわからぬままに逃げ惑うとは想像もしませんでした。1994年12月日本で出会った方々のご支援により家族全員で日本の地を再び踏むことが出来ました。今日こうして生きているのは奇跡だとよく感じます。今は、生きているからこそ出来ることを探し続けています。一人の力で出来ることは小さいですが、みんなの力で出来ることは大きいと毎日感じています。

「ルワンダの教育を考える会」が出来てから18年が経ちます。皆様の力の偉大さをルワンダの子ども達が示してくれました。教育は人々の歴史を繋ぐものです。

ウムチョムィーザ学園卒業生のある家族を紹介します。彼女は当学園の掃除を担当しており、そこで得た収入で当学園に子どもを入学させ、その後中学校等教育を受けさせることが出来ました。そしてなんと今、孫娘が当学園の幼稚園に通っています。世代を超えて当学園を選び通う姿は当会の歴史とつながっていると感じます。

大虐殺で夢と希望をなくしていた私達家族は、福島の皆様をはじめ全国の皆様に支えられて夢と希望を取り戻すことが出来ました。当会のスローガンでもある「教育は平和と発展のカギ」そのカギで大虐殺を経験していない次の世代も平和を築けるように、そして今もルワンダ国内で夢と希望をなくしている子ども達に渡せるように活動を続けていきます。



卒業生と娘

最後に、共に活動を続けてくださっている皆様に心から感謝いたします。夢と希望を持って生きることが私に出来る精一杯の感謝の気持ちを伝える方法です。これからも命ある限り夢を子ども達に運んでいきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

ウムチョムウーザ学園報告

○ 2018年1月1日～12月31日 学費の納入状況報告

生徒数：262名

学費計画：1学期85,000ルワンダフラン×262名×3学期

*2018/12/31現在時価換算による。



	予算	決算	
2018年学費収入	8,241,210円		
2017年末納分納入額		320,210円	
2018年納入額		5,104,300円	61.94%
2018年末納額		3,136,910円	38.06%

(1人あたり=1学期85,000ルワンダフランを約10,485円に換算)

○ 2018年1月1日～12月31日 学園会計報告

〔収入〕		〔支出〕		円換算	
項目	金額	項目	金額	項目	金額
学費【前学期未納分も含む】	5,424,510	職員給料	4,054,570	広報費	49,342
入学登録料	74,012	職員ボーナス	978,020	住民税	62,719
学校保険掛金	3,454	年金掛金	512,635	交際費	110,402
給食費収入	1,326,320	健康保険料	559,942	銀行手数料	45,853
ピアノレンタル収入	118,136	国税	1,182,420	消耗品費	59,383
ユニホーム作成販売	44,087	給食経費	1,174,530	ユニホーム布地	50,772
ユニホーム作成室賃貸	4,113	光熱水費	55,336	銀行借入返済	61,677
多目的室賃貸収入	128,720	通信費	105,073	職員へ前貸し	3,084
アンテナ収入	296,049	印刷費	259,234		
水販売収入	3,096	旅費交通費	293,749		
その他の収入	53,518	会議・研修費	382,186		
考える会からの支援	2,538,820	施設維持費	259,684		
個人寄付	128,426	外部監査料	254,565		
補助金	0	生徒医療保険	56,428		
繰越金	392,168	備品購入	111,551		
個人からの返済	286,893	修理費	0		
		小計	10,239,923	小計	443,232
合計	10,822,322			合計	10,683,155

残金 139,167

算数指導プロジェクト支援により、2018年小学校卒業生29人全員が中学校入学試験に合格し、そのうちAランク合格は15名Bランクが14名でした。今後もより良い授業の為に毎週水曜日に先生方の研修を進めて参ります。

ADESOC代表チャールズ&ウムチョムイーザ学園校長フランソワーズより

1994年大虐殺後たくさんの子ども達が混乱の中教育を受ける機会がなく、心のリハビリが必要だった時期に、福島でNPO法人ルワンダの教育を考える会が誕生し、2002年ウムチョムイーザ学園を開校することが出来ました。当初から教室を作る経済的な支援そして技術的な支援をいただきました。18年間、日本と交流する中でいろいろな課題にぶつかってきました。ルイズをはじめ日本の方々が「共に歩んでいこう」という気持ちを持ち続けていただいたおかげで、異文化交流の大変さをお互いに乗り越えてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

おかげでウムチョムイーザ学園の子ども達にしっかりと学ぶ場を提供して18年が経ちました。これからも、次の世代を育てる教育を共に歩めることを祈っています。



NPO法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所からの報告

ルワンダ支援の会計報告

* 2018/12/31 現在時価換算による

期間：2018年9月～12月

単位：円

ADESOC	ミヨベプロジェクト	算数指導プロジェクト	健康診断事業	ルワンダ事務所	計
793,728	835,724	390,457	328,220	1,195,011	3,543,140

※ 日本の円をルワンダへ送金すると、日々金額が変動するので、報告額を単純に比較できないので、おおよそのお金の動きとしてご理解願います。今回は 100 ルワンダフラン≒12.34 円で表記します。

ルワンダ事務所より

現地事務所責任者

アキンティジェ シンバ カリオベ

NPO法人ルワンダの教育を考える会がルワンダで活動し始めて18年経ちます。この場を借りて今まで継続されてきました皆様に敬意を払いたと思います。

現在私たちは日本からの支援が、滞りなくそれぞれ困っている人たちにスムーズに行き届くようなシステムを模索しています。それに伴って、いろいろな評価資料を作成しています。これらを作成することによって正確に自己評価が出来るようになります。

もう一つは、パートナーシップに力を入れています。日本から様々な方がルワンダに来ていただいています。ウムチョムイーザ学園をはじめとして今のルワンダの実態と私たちの活動をより良く知っていただくために必要なことです。



NPO法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所の活動は、ルワンダ再貧困地域ミヨベにも広がっています。2018年4月から2019年3月までの活動報告や2019年の年間計画も作成しています。

ルワンダでも3.11東日本大震災で犠牲になった人々そして復興を願う合同イベントを開催しました。

現地事務所のスタッフの皆さんと共に、これからも今まで以上に日本とルワンダの当会協力のもとで、「教育は平和と発展の鍵」を合言葉に教育と健康を子ども達に提供していきます。

今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



3.11の祈り

プロッシーさん活動報告

ルワンダのウムチョムイーザ学園の幼稚園と小学校で教師をしているハテゲカ・ルイズ・プロッシーさんは、国際協力機構（JICA）と福島県中島村と当会の協力で11月末に来日し、中島村の中島幼稚園で1ヶ月間研修を行うことが出来ました。初来日の福島の子供達との出会いで感じたことを書いていただきました。

皆さん、こんにちは！お元気ですか？

2018年11月28日から1ヶ月、たくさんの方々に支えられて中島幼稚園で研修を受けることが出来ましたことに、心から感謝いたします。

この研修で、多くの体験を通して、子どもを預かる基礎的な知識を学ばせていただきました。ルワンダの子どもも日本の子どもも笑って泣いて遊んで・・・瞳が輝いていてどこで生まれてもみんな同じだなと思いました。しかし、子どもは生まれ育った環境によって、義務と権利と躾を小さい時から学んで身に着けるものだなとも感じました。

ウムチョムイーザ学園ではたくさんの課題にぶつかっている私達ですが、日本では幼児教育の基礎がしっかりしているので問題にならないことに気づきました。そして、指導とは、子ども自身にどうするか？どうあるべきか？ということに進んで気づかせること。もっと大切だと思ったのは、子ども達の話をよく聞くこと、活動をよく見ることです。遊びの中から学ぶこれが一番良い学びの手取り早い方法だと気づきました。教室が子ども達にとって素晴らしい場所になっていました。



そしてこの研修で学んだ最大のことは、先生が教室を「子ども達が主人公の場」に作り上げているということです。絵本をみて新たな発見にときめいている子どもの姿、いきいきと自然に遊びの中から社会性を学んでいる子どもの姿。このような幼児教育が出来ている教室を素晴らしいと思いました。

これから私は何をすべきか、私に新しい可能性を開いてくれました。未来を担う子ども達を育てていくこと、将来のリーダー・医師・先生・エンジニアなどなど私の手にある仕事は大きいと感じました。平和を築くために、小さい時から多様性を認め合い仲良くする生き方を教えれば、たくさんの壁を乗り越えることが出来るし、みんなが住みよい社会を作ってくれと信じて導きたいと思いました。

ルワンダでこれから私がやらなければならないことはたくさんあります。ただ、私一人が頑張っても成し遂げられることではありません。私が学んだことを毎日の生活の中でそして校内研修をとおして同僚にシェアしていきます。私の行動がろうそくの灯のように日本からもらった明かりを照らしてゆきます。この研修をとおして先生たちのスキルアップそしてそのことによって、先生チームからたくさんの子供達の生活そして人生を変えるものに繋がると信じています。

教育はルワンダでもアフリカでもまだまだ課題がたくさんあります。それを解決していくことが、教育に携わっている一人一人の役割でもあります。みんなに良い教育が行き渡るために私たちは「出来ることをする」「出来るときにする」そして「自分の持っているスキルを広げる」を心がけゆっくり確実に歩んで行きたいと思います。

最後に私をこの夢までたどり着かせてくれた皆様に感謝します。



2019.3

ルワンダに気付かされること

長野県 佐野美和子

「アフリカへボランティアに行く！」そんな思いで2018年11月中旬出かけて行きました。ところが約1ヶ月滞在中でそれらしい事と言ったら、ルイズさんの日本語資料の漢字にルビをふるくらい、つまりほとんど何も出来なかったに等しい状況でした。しかし、出会いと気付きは大きな衝撃でした。多くの人たちとお会いでき、忘れがたい日々となりました。

ルイズさんたちが、キガリに立ち上げた学校のみならず、周辺の公立学校で困っている生徒たちへの支援であるとか、首都から遠く離れたミヨベ村の村民の生活そのものに関わる支援であるとか、間口を狭めずにそれぞれに奥行きのある取り組みを展開されている、柔軟さとバイタリティーに頭が下がる思いがしました。

また、「対応の姿勢も、流石だなあ」と思われました。一例を挙げると、ウムチョムイーザ学園で、支払いの出来なかった保護者を集めた時のこと。話をどうやってもっていくのだろうと私は気になっていました。現状を説明して、参加の親たちに「どうしたら？」とルイズさんは投げかけました。ミシンができる親が「学校で必要な服を縫う」と発言し、別の親は「石鹸作りをやる」と。そういった技術を持つ人はいいいけれど、そうでない人はどうするのか…。私としても気掛かりな点でした。するとある親が「技術のある人がない人に教えて、みんなで取り組みればいい」と発言して、会場が拍手に包まれたのです。なるほど!!と私は納得しました。



保護者の集会にて

私にとって強烈な気付き、それが大虐殺に関わるものでした。キガリ虐殺記念館とムランビ虐殺記念館を訪ねました。向かった先にあったもの、今も脳裏に蘇ってきます。木製の台の上にただただ並べられたミイラ化した遺体の数々。消毒薬だけとは思えない独特のにおい。苦しんで、やせ細って、息絶えていった人々のそのままの姿がそこに在りました。中には頭部に大きな損傷を負ったものも…。中には子どもと思われる小さな姿も…。遺体は何百という数にのぼりました。

「これらの骨をなぜ、葬ってあげないのですか」の私の問いにルイズさんは「無かった事にされてしまわないために」と説明してくれました。

私自身は戦後の生まれです。新たな憲法が制定され「これからは戦争のない、平和な時代」と思って日々を過ごしていました。戦時中の苦しい体験を語る大人を見て、「そんな話をする必要あるのだろうか」と思っていた少女時代の自分がいました。「戦争するか？」と問われれば「しない」と答えるに決まっている、そう思っていたのでした。

ところが、今の日本はどうでしょう。「戦争が出来る国」へ変貌しようとしているのではないかと危うさを感じます。戦後74年目の日本が大虐殺後25年のルワンダに、戦争をしないためにはどうすればよいか？とても大切なことを気付かされると痛感しました。



キガリ虐殺記念館前

【ルワンダ写真展&プロッシー活動報告会 2019・1・4～8】



当会の新年の始まりは、ルワンダ写真展から！！今年も、チェンバ大町にて4日間写真展を開催いたしました。2018年度の活動報告を写真パネルやミヨベプロジェクトの技術訓練で参加住民たちが制作した手製のランチョンマットの実物を置かせていただきました。ルワンダコーヒー・紅茶を出店し、来場した方々はコーヒーや紅茶を味わいながら写真展を楽しんでいただきました。

1月5日（土）には、11月から日本に来日していたウムチョムイーザ学園・幼稚園で教員、ハテゲカ・ルイズ・プロッシーさんの帰国前報告会が行われました。会場内では、来ていただいた皆さんへルワンダの味を振る舞いたい！とプロッシーさん手づくりのサンブサ（牛ひき肉と野菜をパイ生地になかに詰め込んで作った料理）が振る舞われ、協力いただいた多くの方々へ感謝の気持ちが伝えられました。



約2カ月研修で学んだ日本の文化や、研修先の中島幼稚園で体験した経験をパワーポイントを使い発表してくださいました。ルワンダに戻り、現地の教員たちに自身の体験を伝え、今後の教員生活に役立てていきたいという強い決意に来場いただいた多くの方々から拍手が与えられました。今年も大いに盛り上がり1年のスタートをきることができました。
ムラコゼキャーネ!(^)!

【ルワンダ新年会報告 2019・1・27】

福島市吉井田小学習センター調理室



ルワンダの教育を考える会の新年会といえば、年を重ねるたびに好例になっている参加者みんなで一からルワンダ料理を作るというものです。老若男女、子ども達からも大人気のトマト味の鶏肉を使った“Sauce de viande : ソース・デ・ビアンデ”と卵を使い、新鮮なお野菜をいっしょに作るスペシャルオムレツ、素揚げしたポテトフライを作り、皆さんそれぞれに協力していただき、出来上がった料理を味わいました。

レシピを知りたい！と多くの方から希望があり、マリールイズが直々にレクチャーを行う場面も見られました。参加者同士も、初めて会う方や、久しぶりに会う方同士が楽しく交流していたり、新潟や東京など遠方から駆けつけてくださった方もいらっしゃいました。そして、マリールイズから今年も、多くの皆様と出会える1年になるように、支援への感謝と今年の活動にご協力をよろしくお願いいたします。という新年のあいさつがありました。

“ウムワカムシャムヒレ(^)！！”（意味：ルワンダ語であけましておめでとう！）

教育は平和と発展の鍵！

NPO法人ルワンダの教育を考える会は、以下の3つの活動をととして、ルワンダの貧しい子ども達の支援を行っています。

1. 命と平和、教育の大切さを伝える講演活動
2. 異文化理解のためのイベント開催
3. コーヒー、紅茶、民芸品の販売



ルワンダフルサマーコンサート2019開催！

※日時: 7月15日(月・祝)

※場所: 郡山市中央公民館 多目的ホール

※内容: マニーマーティンコンサート他

☆7/16～22、郡山うすいで、ルワンダウィーク開催！



★あなたのご支援をお願いします！

ルワンダコーヒー・紅茶通信販売のお知らせ

	コーヒー (豆・粉)	200 g	1,200円	最少購入個数	5個	(送料込み)
コーヒーはルワンダの重要な農産物です。コーヒー栽培に適した自然環境と丁寧な作業が最高品質の生豆を生み出します。 バランスの取れた柔らかみのある柑橘系の酸味と甘み、クリーミなコクが特徴的です。						
	紅 茶	100 g	600円	最少購入個数	20個	(送料込み)
紅茶も、ルワンダの重要な農産物です。 華やかな風味も感じられるすっきりと爽やかな紅茶です。						
発注方法		メール: info@rwanda-npo.org				

イベントスタッフ随時募集中！

一緒にイベントを楽しみませんか？連絡をお待ちしています。

※イベント情報は、ホームページ、フェイスブックでチェックしてください！



ウムチョムイーザ・ウムチョムイーザ 僕らの学校
 ウムチョムイーザ・ウムチョムイーザ ここから始めよう
 ウムチョムイーザ・ウムチョムイーザ 僕らのこの手で
 ウムチョムイーザ・ウムチョムイーザ 平和をつかもう

悲しい歴史も つらい思い出も
 消し去ることは できないけれど
 僕らの力で ああ 僕らのこの手で
 新しい歴史を 作り出そう



1994年
 ルワンダ内戦
 2011年
 福島原発爆発
 それでも
 助け合って
 生きてゆく

お知らせ

総会 — 2019年5月19日(日) 場所:福島市内(予定)

協議事項 — 事業報告・決算・事業計画・予算案・役員改選

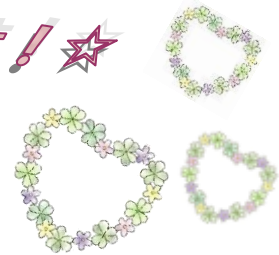
※ 詳しくは正会員にご案内いたします。会の発展のためにぜひご参加ください。

☆各種振替口座番号のご案内です!☆

会費振込・寄付・募金

郵便振替口座: 02290-0-97126

加入者名: NPO法人 ルワンダの教育を考える会



【ゆうちょ口座自動振込み寄付】 月一口500円から

ホームページ掲載 目標100名まで継続して募集します。現在59名登録

ルワンダフル クリスマスキャンペーンの報告

12月1日~12月31日まで、76件 1,245,516円のご寄付をいただいたことを報告します。ルワンダの子ども達のために活用させていただきます



—編集後記—

福島第一原発事故の収束はまだまだ見通せず、震災から9年目
 セシウム半減期は30年。

孫は4月から小学生、心を
 前へ! 福島で生きる!

T.S



NPO法人ルワンダの教育を考える会

理事長 永遠瑠マリルイズ

〒960-8036

福島県福島市新町 8-21

TEL:024-563-6334 FAX:024-563-6335

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org>

福島mail: info@rwanda-npo.org